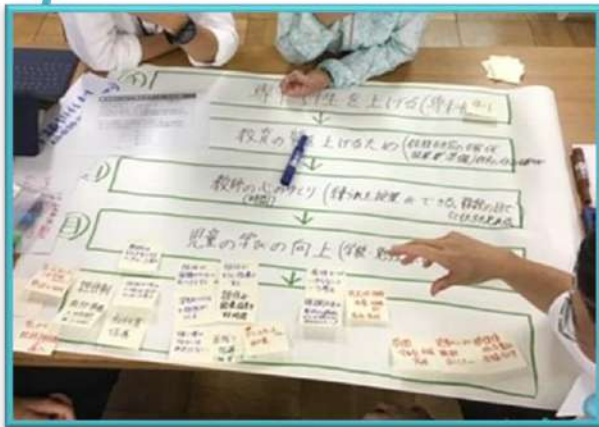
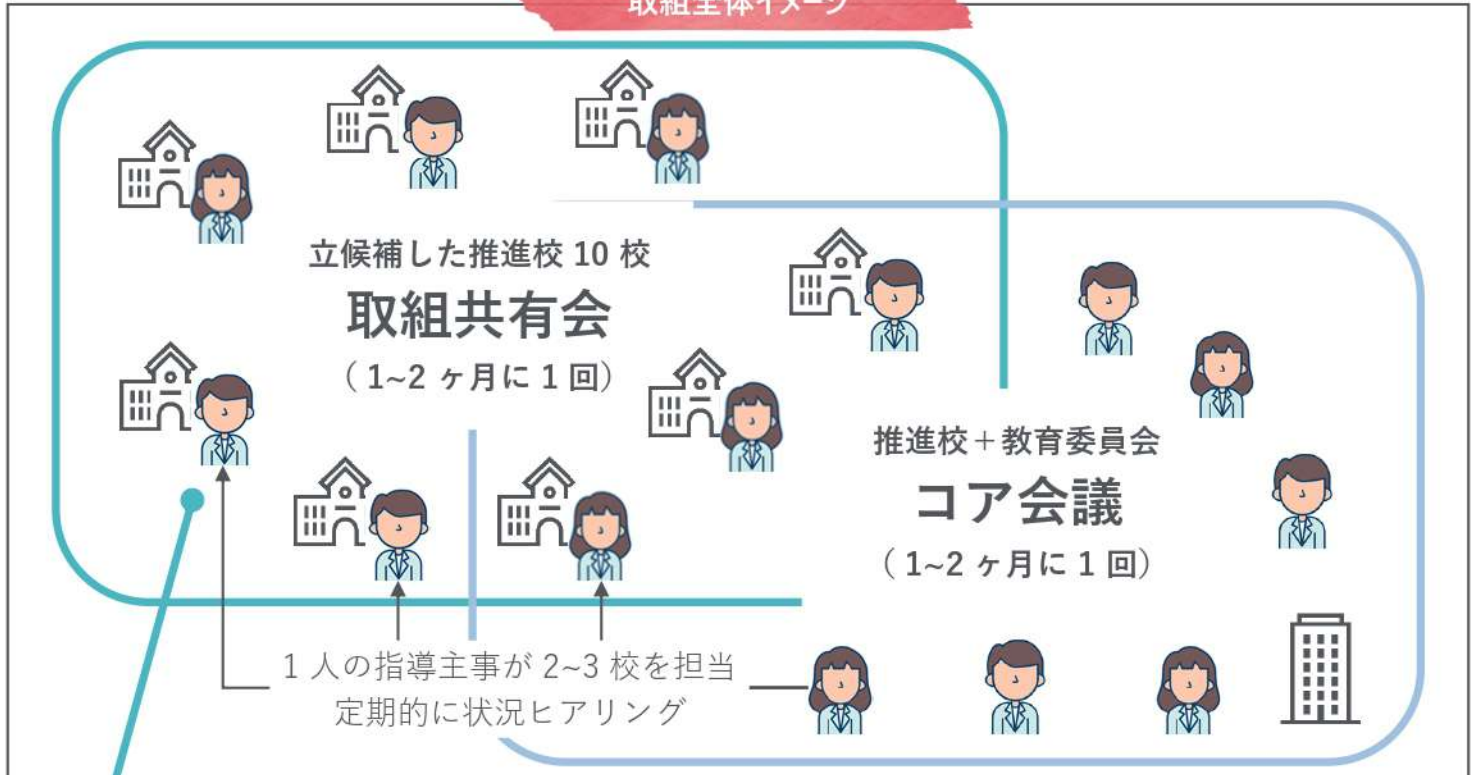


市内学校が自走する業務改善の仕組みづくり

①推進校同士の取組共有会、②推進校と教育委員会のコア会議を中心に、学校現場の自走を教育委員会が支援する体制づくりに焦点を当てている大阪府枚方市教育委員会にお話を伺いました。

取組全体イメージ



◀各校で業務改善のアイデア出しワークショップを実施

※一部の学校では、PTA役員や学校運営協議会委員も参加

すぐに取組に移されたこととしては、以下のようなものが挙げられます。

- 夕礼の回数が多いので伝言板を活用
- 保護者宛に電話対応時間を通知
- 担任外が丸つけ補助 など

枚方市の取組のポイントは何か？

A. ①立候補で推進校を決めたこと、②推進校同士がざっくりばらんに相談できるよう短いスパンで取組を共有していることだと思います。

A. 「推進校」というと順番で回って来たり、この学校なら成果を上げてくれるだろうというので決めてしまうこともあるかと思うのですが、学校が自ら手を挙げ、**自主的に取り組むことを重視**しています。

推進校からはどのような声が挙がっていますか？

A. ワークショップで先生方からは「『傍観者』ではなく『当事者』で取り組んでいきたい」「何が本当に必要かを考えることができた。あたり前と思っていることがたくさんあるので、意識を変えていきたい」といった声や、PTA役員の方からは「**習慣で続いていることも多く、地域やPTAが協力できることはして、先生が子供と関わる時間を増やせたらいいな**と思った」といった声をいただいています。

教育委員会における業務改善

前頁に続き、大阪府枚方市教育委員会で働き方改革を担当する教職員課の業務改善についてお話を伺いました。

教職員課の業務改善成果



#	取組
1	朝の会（5分）で、全員の予定共有
2	昼の会（5分）で、退庁時刻の宣言
3	人事ヒアリングの回数・方法の変更
4	校長面談の接待廃止 (案内&立ち番・お茶出し)
5	部長の送迎廃止
6	一部選考の平日実施
7	時間外の学習会の一部縮小
8	年度途中でも効率的な業務分担に変更
9	管外旅行願の廃止（携帯電話で対応）

どのような問題意識のもと、取組を始められたのですか？

- A. **長時間勤務があたり前**であったり、**前例踏襲**で何年も変わらず慣習的に行っている業務が多かったりといったことへの問題意識からスタートしました。
- A. また、**お互いがどのような業務を抱えているか見えていないことも多く、業務改善の提案をする場もなかった**ので、改善が進みにくいという状況でした。

例えば、どのような改善を行われたのですか？

- A. 例えば、校長面談で、校長先生がいらっしゃる際に指導主事が廊下で待機していたのですが、計算してみると、指導主事4人でローテーションして1人あたり年間32時間も廊下に立っているということが分かりました。**32時間あったら、どれだけ学校に関われたんだろう**って感じですよ。
- A. 他にも学校訪問の回数を見直したり、「学校の働き方改革」について扱っている新聞記事へ一言コメントを書いて、働き方改革への考え方を共有したりしました。

働き方改革に取り組んで、どのように感じられましたか？

- A. 前例踏襲を見直して、本当に必要なことだけを残していくことで、浮いた時間でこういうこともできるかもと実感できて、**自分のモチベーション向上にも繋がりました**。ぜひ、**学校の先生方にもそのように感じてもらいたい**と思っています。
- A. また、進めるなかで、**校長先生方が応援してくれたことも心強かった**です。「市教委の指導主事の働き方改革しなあかんで」「こっちも大変やけど、そっちも大変でしょ」などの一言が嬉しかったです。